子育てかわら版 第１２

園長だより１１６号復刻

過去の園長だよりです

平成１８年１２月１日発行

子供にお願いすれば聞いてくれる

SIあそびのその他の目的

かつて、あるお母さんに「どうして当園を選んだのですか」と聞いたところ、「先生達の使っている言葉がとても素晴らしいからです」と言われました。そして、このように言われるお母さんは他にもかなり沢山います。さらに、「私、先生達が使っている言葉を真似しているんですよ」とも言ってくれています。

光の泉幼稚園の先生達が使っている言葉は子供たちの情緒を育て、困難に遭遇したとき、自分の力で乗り越えていけるような子供にするため、あらゆる場面で子供たちを勇気づける言葉を使っています。詳しくは園長便り104号でもお知らせしましたが、このような言葉は、知能を高めるために行っているSIあそびの指導講師である白浜先生から毎年研修を受けて、身につけたものであり、先輩達の真似をしていく中で身についたものです。

子供の自立を援助する教師達が心がけていることの一つに子供達が『自分で言える』ということを大事にしています。自分で言えるとは、

1. 自分の気持ちを言える。
2. 自分の要求や提案を言える。
3. 状況を説明できる

ことを言い、これらが出来ることを目標にしていますが、それには教師自らが模範を示し、子供たちに真似をさせるようにしていかなければなりません。間違っても「口があるでしょう、ちゃんと口で言いなさい」などと突き放したり、押さえ込んだりしてはいけません。

自分の気持ちを言えるようにするためには『私メッセージ』が溢れるクラスを作るようにします。

私メッセージと言うのは主語に私がつく言葉で、自分の気持ちを伝える言葉です。この反対に『あなたメッセージ』というのは主語にあなたがつく言葉で、「あなたのやったことは良い、あるいは悪い」などのように相手の行動や気持ちに対して意見を言う言葉です。あなたメッセージは相手の行為の結果の良し悪しをいうことが多くなり、結果重視、相手の非難の姿勢になりやすく、子供がやろうとしている気持ちを打ち砕いてしまう場合がありますので、極力私メッセージを使いたいものだと思います。

また、光の泉の教師達は「○○して欲しいな」、「○○してくれる」、「○○しようよ」という言葉を使います。これらは、要求的言葉、提案的言葉と言って、別な言い方をすると『おねがい言葉』ということが出来ます。子供達は純粋ですから、大好きな先生からお願いされたら、気持ちよく応えてくれるものです。人から言われて初めて行なうような指示待ち人間ではなく、自分の考えで行動できる人間にするためには指示語命令語で子供を動かすのではなく、子供に納得させ、子供たちの意欲を育てて、子供自らの意思で行動するように導くべきです。それには『お願い言葉』を使っていくようにしています。お願いですから、聞く、聞かないは子供の意思と判断によります。

お願いに応えてくれない場合は、まだ信頼関係が出来ていないか、何らかの問題を抱えているのではないかと考えて対応を考えてみる必要があります。

家庭と違って、幼稚園ではいろいろな事件が起こります。教師が見ていないところで起きた事件は、丁寧に聞いていかないと状況がつかめません。3歳児は勿論、今、ようやく言葉を沢山使い始めた4歳児はまだまだ言葉で説明することが出来ません。「うんとね、うんとね」ばかりでなかなか先に進みません。じっくり時間をかけて聞いてあげること、上手にあいづちを打ってあげたり、言葉が出やすいように、ポンプの呼び水のように的確な質問をしたりすることで援助します。3歳、4歳の場合は子供が言いたいことを想像して代わりに教師が言ってあげる代弁なども行います。これは子供がコミュニケーションとはすばらしいものだということを実感していくのに大いに役立ちます。

SIあそびでは、考える力をつけるだけでなく、自分の考えをみんなの前で発表できるようにすることも保育の目標にしています。